

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成26年2月13日(2014.2.13)

【公表番号】特表2012-503739(P2012-503739A)

【公表日】平成24年2月9日(2012.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2012-006

【出願番号】特願2011-528379(P2011-528379)

【国際特許分類】

F 0 3 B 13/14 (2006.01)

【F I】

F 0 3 B 13/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年12月19日(2013.12.19)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

浮遊式発電装置本体1の舷側に、波長の約1/2の深さに設定された重い水平フランジ2が吊り下げられている。本体1は、同様に、フランジ2の反対側に傾く傾向に、非対称に荷重されている。フランジ2と本体1の荷重とはお互いに釣り合い、それによって、穏やかな水では、発電装置は、回転子6のシャフトであって同時に旋回シャフトでもあるシャフト5が垂直位置になるように浮遊する。フランジ2が上下運動を妨害するという現実が、波による長手方向の揺動力と一緒に、旋回運動を生じる横向きの揺動力を生じる。フランジ2を支える懸架チェーンもしくはケーブル3の長さは、喫水線13からのその深さが波の長さの約1/2に等しいか、または所望の大きさの効果を得るための他の深さとなるように調節することを可能にするように適合させることが可能である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 9】

旋回運動は、波の伝搬方向Aに対して実質的に交差して発電装置本体1に取り付けられている1つまたは複数の横断フランジ4によっても補助される。横断フランジ4は、波の伝搬方向Aにおいて旋回シャフト5の下流の、当該旋回シャフトからある距離に位置される。フランジ4は、浮遊式発電装置本体1が加速運動で波と一緒に移動することを防ぎ、これは、旋回運動に応じて本体1の動きが回転子6の回転に対抗するような位置に正確に位置する。したがって、フランジ4によって、原則として、本体1の水平動作はできなくなり、本体1は、波の浮力に応じて、主に垂直方向に動作し、それにもかかわらず、垂直方向の動作は、旋回シャフト5の様々な側において非同期的に生じ、結果として旋回運動を生じる。